

刊夕日六廿月一十



定価一冊五錢  
 一月五錢  
 三月一十五錢  
 半年三十錢  
 一年六十錢  
 廣告料五號十二字第一行金五錢  
 日曜祭日の翌日休刊  
 印刷所 常磐毎日印刷株式會社  
 電話 六三〇  
 發行所 常磐毎日新聞社  
 電話 六三〇  
 編集人 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日印刷株式會社

### 救護法に就て [七]

平町共済會委員 門傳清吾

第三章 救護施設  
 此章下に於ては、救護の目的を達する爲めの施設に就て規定して在る、而して救護施設とは、養老院、孤兒院、病院其他本法に依る救護を目的とする施設の一切を總稱するのである。

第六條 本法に於て救護施設と稱するは、養老院、孤兒院、病院、其他本法に依る救護を目的とする施設を謂ふ

と規定し極めて明白に救護施設の定義を示してある。唯之を個別的に概説すれば大體左の通りである。

一、養老院は從來のもの、其内容に於て大差ないが、其異なる点は、其收容すべき老衰者に制限がある点である。即ち既に説明した如く本法第一條第一號に規定する六十五歳以上の老衰者にして、貧困の爲め生活すること能はざる者で本法に依り救護すべき者を收容し救護する施設を指すのである。

二、孤兒院、是亦從來のもの、大差ないが、同項同様本法、第一條第二號に該當する、十三歳以下の

幼者にして、貧困の爲め生活し能ざる者を收容救護する施設を指すのである。

三、病院、是亦本法第一條第三、四號該當者にして醫師の診療を要する者或は看護を要する者を收容救護する施設を云ふのである。

四、其他、託兒所とか感化院とか種々なる名稱の下に本法の救護の設備として存在するものは總べて救護施設である、但し注意を要するは一種の建物、一人の經營者であつても其方は救護施設であり他方は一般の有利的施設であり得るのである、何となれば、救護施設としての仕事と、有利施設としての仕事とは嚴然區別して、處理し得るからであることを附言して置く

次に救護施設を設置する手續に付ては、第七條に規定してある即ち第七條市町村救護施設を設置せんとする時は、其設備に付き地方長官の認可を受くべし。

私人救護施設を設置せんとするときは地方長官の認可を受くべし  
 とありて救護機關たる市、町、村に於て救護施設を爲すべきときは施設に關しては地方長官の認可を必要としないことになつて居るが其設備例へば何間の建物を如何なる構造で設置するか等に付き認可を受けることになつて居る。



土

鈴木農夫

我土を踏む  
 土はジムク  
 香あり  
 生命あり  
 我は土に驅られて生きん

土に還らんと  
 我は憶ひり  
 土は心あり  
 生命あり  
 しばしは土の友たらん

唯かは我にとりならば  
 土に還らんと  
 我は云ふより  
 土はジムク  
 愛あり  
 生命あり

## 毛糸 特賣デー

十一月廿六日ヨリ 五日間  
 十一月三十日マデ

防寒用太毛糸 一オンス 八 錢  
 スキー御毛糸 一オンス 十三 錢  
 一封度(十六オンス)以上御買上の方に  
 賣出し期間中「最も新しい毛糸編物  
 本」一部進呈

平町田町 ハシモトヤ糸店

## サロンの黒ビール

レストラン サロン  
 電三五二

## 耳鼻咽喉科専門

平町南町一

## 増田醫院

電話四八二番



玉屋洋品店  
 平町田町通電話六五六番

## お茶の値下斷行

本場銘茶の優良品を一段と品質を向上致しまして  
 英斷的値下致しました、何卒御試飲下さいませ  
 煎茶四十目袋入 十 錢より  
 五十 錢まで  
 香りのおい家庭徳用別焙  
 ほうじ茶四十目袋入 十五 錢  
 第二號十 錢



## 保險は人生の鍵

### ◎山は富士、保險は三井

一、老へ行く先の慰安になさんとする人々は……三井生命へ  
 一、將來獨立の生計をなさんとする人々は……三井生命へ  
 一、遺族の爲に扶助金を造らんとする人々は……三井生命へ  
 一、人生は朝露の如し萬一に備ふる人々は……三井生命へ  
 一、貯金よりも最も有利なる方法を求めんとする人々は……三井生命へ  
 一、子息を完全に教育せんとする人々は……三井生命へ  
 一、今日は人の身明すは我が身と思ふ人々は……三井生命へ  
 一、保險加入の有無は自己信用の尺度と思ふ人々は……三井生命へ  
 保險は身の爲め國の爲め轉ばぬ先の杖花も實もある三井生命を御奨め致します

三井生命平駐在社員 福島 寛利  
 平町紺屋町二  
 三井生命代理店主幹 佐藤 永春

# 年末を月餘に控へ

## 不活發な平金融界

### 資金活用は殆んど絶無

#### 許されぬ來年度の豫斷

年末を月餘に控へて平町を中心とした金融状態は依然硬塞不活發の状態を免れない、即ち現在僅かに米穀資金の

#### 運用を見て居るに過ぎず

又年末に運用される諸物貨仕入れの資金活用も殆んどなく其の他各方面の事業の投資は絶無の姿で中央に於ける金利の高騰も現在に至つてはその影響を蒙らない實状にあるためその窮状は一段深刻なるものと觀測されて居る、而して支那問題並に英國その他に於ける

#### 金融上の錯綜した關係は來年度の豫斷を許さず依然混沌たる状態である

拜啓益々御清榮奉賀候在御中は一方向ならざる御後援を賜り且出發に際しては盛大なる送別會を開催御儀別迄賜り御多用中御見送り下さり我等一行の前途を祝福下

### 一家を南米へ

途中から一筆啓上  
佐藤武雄

(一)

拜啓益々御清榮奉賀候在御中は一方向ならざる御後援を賜り且出發に際しては盛大なる送別會を開催御儀別迄賜り御多用中御見送り下さり我等一行の前途を祝福下

#### 夏井高久聯合

#### 青訓檢閲

#### 終て軍事講演

石城郡夏井村小學校に廿八日午前九時より夏井高久兩村聯合青年訓練所の秋期檢閲を行ふが午後からは講堂にて宮尾陸軍中佐の軍事講演ある由

#### 堆肥増殖

#### 講習會の科目

既報郡農會並に縣農會聯合の第二回堆肥増殖改良指導講習會は十二月廿、廿一、廿二日及び來年一月廿六、廿七の兩日農事試驗神谷分場で開催されるが講習科目及び講師は左の如く決定し

#### 純心に培れて

#### 磐女校の音楽會

乙女等は朗らかに歌ふ——平町に於ける秋の一景物として期待される磐城高等女學校の音楽演奏會は來る廿九日の午後零時半から同校講堂に開催される

#### 四倉信用總會

信用組合第十一回通常總會は廿七日午後一時より同町小學校に開催する

#### 四倉編物展覽

町磐城女子職業學校では廿七日午前九時から同校に生徒製作品並に編物展覽會を開催する

#### 檢討・實習

△廿二日 堆肥製造實習 實習講評及び増殖獎勵法(以上田中講師)

#### 四倉編物展覽

町磐城女子職業學校では廿七日午前九時から同校に生徒製作品並に編物展覽會を開催する

#### 純心に培れて

乙女等は朗らかに歌ふ——平町に於ける秋の一景物として期待される磐城高等女學校の音楽演奏會は來る廿九日の午後零時半から同校講堂に開催される

#### 磐女校の音楽會

乙女等は朗らかに歌ふ——平町に於ける秋の一景物として期待される磐城高等女學校の音楽演奏會は來る廿九日の午後零時半から同校講堂に開催される

#### 朝に

アノ音が絶えず流れて行く

#### 無謀なる此の改廢

平治療院を廢止し 磐中は一學級を減

#### 整理内

一紛擾を免れず

#### 豐間新村長

鈴木氏經歷

#### 看護婦急派

人の足を止めしめて居る、決定した左記のプログラムの内に田中教諭のピアノ獨奏夜曲「ショパン作品三七ノ一」が斷然光つて居る事を見落してはならない

ノ四△ピアノ獨奏、オータローの戦、四年柴田靜△獨唱、月と母、四年松田文字△三部合唱、初雁四ノ三△二部合唱、優勝選手、二ノ一、二△ピアノ獨奏、夜曲ショパン作品三七ノ一、田中教諭△三部合唱、日本讚歌、四年コーラス△開會の辭、校友會々々

追人巨 エチソン翁の學校訓話 追悼會を來る廿七日全國的に催す事になつたので平町に於ても磐城中學校、平商業學校、磐城高等女學校を始め平第一、第二、第三各小學校に於て夫々エチソン翁の逸事等に就き校長より訓話ある由

往來 野崎縣議 廿五日午後六時廿二分歸平 萩原縣議 同日午後八時四十分歸平 伏見平町長 廿五日若松行 佐藤川前村長 廿六日午前十時三十三分來平 安島重三郎氏 同十時卅五分來平 伊藤縣事務官 同十一時十八分歸福 平町人事 回出生 白銀町五、中島唯市氏三女マツ 回死亡 立町五七、小野寺治雄氏(三五新 湯縣蒲反郡横就村字小杉、中川キタ(三))

看護婦急派の求めに應じます 平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

### 執念深くつゞき纏ふ朝鮮人に

## 恐れを感じて家出

### 挨拶を交はしたのが因果の種

## 弱きものよ、女!

既報廿三日石城郡上遠銀村地内を通行中挨拶を交はしたが之で知合になつた朝鮮人の爲め誘拐された東白河郡笹原村生れ小峰ミツ(三三)は此程石城郡内郷村新町の實姉サト方に連れもどされたが例の

と同時に郷里の實家に知らせたので  
實家より は心配の餘りミツの父親が屈強な若者三名を引連れ昨夜平署に出頭ミツの行衛に就いて種々打合せを爲し八方に人を走せて行衛を捜索中であるが

石城郡出身の勇士にして零下四十度の苦寒に身を處し北滿の大平原に奮闘中遂に凍傷に冒されて此程奉天衛成病院に收容されたのは左記の四氏である  
步二九 一等兵下山田勝(植田出身)  
同第五中隊 一等兵上遠野好行(勿來町出身)  
同曲射砲第二中隊 二等兵橋本八百治(磐崎村出身)  
同第五中隊 一等兵箱崎慶

## 石城出身の凍傷兵

### 四勇士病院に收容

三郎(下小川村出身)

## 警中生松野君

### 知事から表彰

溺れ子を救助して

## 支拂ひに困り

## 女將を半殺し

### けさ南町の血塗騒ぎ

### 逃走の際発見されて

今朝午前九時半頃平町南町うどん屋小川屋方へ向ふ側の飲食店佐藤屋女將佐藤サト(五)が顔面に血を浴び癡卷着の儘で『殺されるから助けて呉れ』と

青年を有無を云はせず引つ捕え取調べた結果同人は平町鍛冶町高野四郎(三)で昨夜十時頃より前記

## 佐藤屋 方にて遊興

## 飛込ん だので大騒

なり直に平署へ急報平署では時を移さず数名の警官が駆付け佐藤屋を包圍し酌婦室の押人に潜伏して居た一

酒十四本、洋食四枚(代金十圓餘)を平げ酔ひつづれて同家に泊したが懐中無一文の爲め支拂に窮し今朝九時頃家人の熟睡中に逃走せすとするのを女將に発見

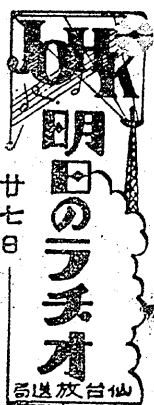
## 好問から

## 偽銀貨

目方が軽いと

鑑定方を願出

石城郡好問村好樂館に活動寫真開演中の伊原興行部が廿四日夜料金を計算した處目方の軽い五十錢銀貨一枚を發要直に偽造銀貨ではないかと其筋へ鑑定方を願出たので平署では本日日本銀行へ送付した



報豫氣天

今晚は北西の風晴れたり曇つたり明日は北東の風曇りの見込み

## 今晚の部

- 後六、〇〇 お話「幸福の神」君島哲壽 合唱「平和」
- 後六、三〇 英語講座 上
- 井磯吉
- 後七、三〇 講演「祖先の心祖先の道」清原貞雄
- 後八、〇〇 民謡「莊内おばこ」鶴岡小唄「莊内音頭」鶴岡藝妓
- 後八、三〇 小唄 小林喜舞外
- 後八、四五 映書物語 仙石雷蹊
- 後九、四〇 時報 全國ニュース 氣象通報

## 學童が辨當代りに

## 薩摩イモを御持參

### 悲惨な石城の山村

### 米が不作の上副業も絶望

石城郡山田、入遠野、上遠野各山村は既に新米の收穫九分通り終了したが天候不順と水害に祟られ全作付反別の三分の收穫に過ぎず其上各村唯一の副業たる蒔蒔栽培も赤腐病、青枯病等發生した爲め收穫も危ぶまれて居るので是等各山村の疲弊甚しきものあり各農家の兒童は辨當代りに甘薯を持參する者が多いと

## 通ひ詰めた揚句

## 言葉巧みに誘拐

### 被害者は共良久亭の女給

### 犯人は前科二犯

石城郡磐崎村字西郷二四三坂本佐藏の二女マサ子(九)は本年四月頃より平町材木町飲食店共良久亭に女給として働いて居たが先月頃より同人のもとへ毎夜の如く通つて来た双葉郡新山町生れ川原義政(三)が数日前言葉巧にマサ子を連れ出して行衛を晦したのでマサ子の親より平署へ搜索願ひを出

## 一針毎に真心こめた

## 彈丸避けの温い胴巻

### 齊藤さんが街頭に起つて

平町才穂小路警署便利店の齊藤茂三郎さんは北滿皇軍將兵の爲めに彈丸避け千人縫の胴巻を作つて贈らうと白メリンズに真綿や唐辛子

### 道行く女性に嘆願

を詰め込み街頭に起つて道行く女性に一針宛を乞ふて居たが昨日は警女校七百の生徒が心をこめて一針宛縫つた爲め殆んど出来上つた

## 明日の部

- 前九、一〇 料理献立
- 前一〇、三〇 家庭講座「木染の染方」三山崎斌
- 後〇、〇五 淨曲三尺「柳」
- 他四曲 平尾虛幽 村治虚
- 後一、二〇 エヂソン追悼會狀況
- 後六、〇〇 お伽漫談「落ちない話」古川緑波
- 後七、三〇 在滿軍隊慰安の夕一、挨拶 安田郷輔
- 一、同 湯澤宮城縣知事

## 一冊の代金

### 御希望通りな

## 五冊の雑誌

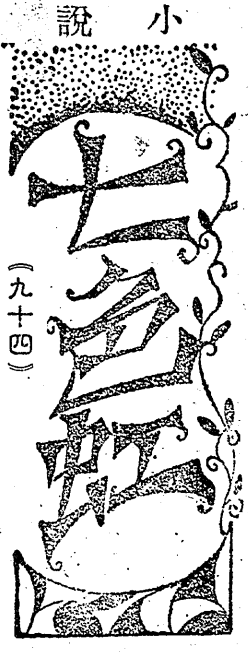
## 自由に讀める

## 川崎文庫

電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

- △女中 十八才乃至廿三才 住込五圓位(久の濱某旅館)
- △豆腐賣子 四十才以下、住込賣上の二割(長橋町)
- △商店雜役 十八才以上卅才以下、二名所要、住込六圓乃至十圓(茨城縣大津町醬油店)
- △求職の部
- △電氣機械製作 十八才、乙種工業卒(新川町)
- △看護婦 十九才、高卒(内郷村)
- △雜夫 四十一才、尋四修(播磨小路)
- △鐵工場見習 十七才、高卒(内聯村)
- △雜夫 卅四才、尋四修(富山縣)
- △雜夫 卅一才、尋五修(南會津)

小説

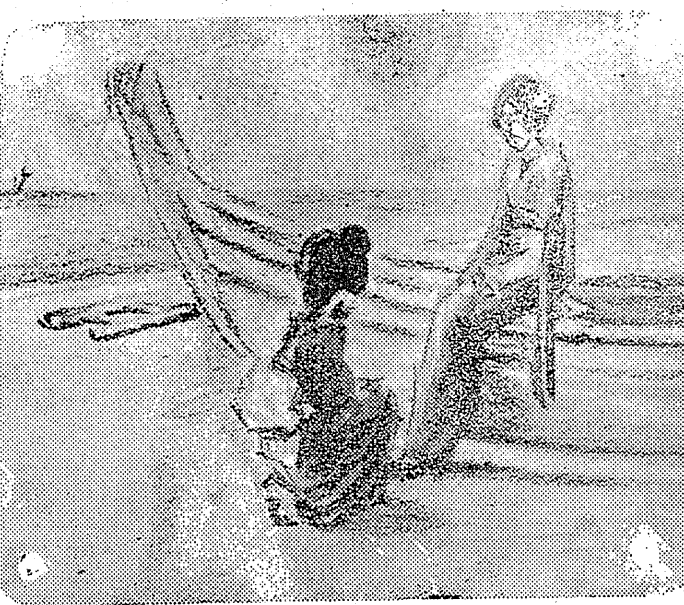


【載轉禁】

渡邊默禪作  
布施平八郎畫

謎の人 (4)

婆さんは籠の置場を忘れてまご／＼する騒ぎそれが鮮青色に風き渡つた空にふはふはと綿雲が浮いて、房洲一帯の山にうら／＼と曳く春霞、波遠く白帆のかな暖い日であつた。  
『あら、誰れか呼んでるぢやないか』  
夢中になつて砂を掘りくり返へして居た郁子夫人は、ひよいと後を振り返つて言つた。海岸の方に若い女が一人出て来て、半巾を振りながら春と此の方を呼んで居る。  
『あゝ、竹だわ、さうよ竹よ』  
郁子は、その女の影をしばらく遠目に見やつてから悠々言つた。  
『竹つて、どなたでございませう』  
おみき婆さんが聞いた。  
『お前へ知らなかつたかね、そこの前に私の伴をして来たことがあつたじやないか、宅の小間使をして居た女だよ』  
『あゝ、あの方でございませう、お口の達者な、意地のなささうな……』  
『何んだつて』  
『いえあの……なかに』



つて岸へ戻つた、と貝殻や藻草の堆く打上げられておる砂地に立つて待つて居たお竹は笑顔の下から急いで駆け寄つた。  
『奥様、御機嫌よろしう、あらこんなに澤山お採りお撈り遊ばしたんです、ま』

お令側さうな方でございませうねえ』  
『さうよ令側なことにかけたら眠から鼻に抜けるような女よ、何か急用でも出来て来たのか知らぬに角婆や上りませうよ』  
『お歸りになりますか』  
二人はちやぶ／＼淺瀬を涉

ア……随分大きいのがありますね、さぞ美味しいことでしょうね、私早く頂きたいわ』  
婆さんの下げた籠の中を見て大いに世辭る。其のくせばあさんなんかには一瞥だもくれなかつた。  
『お前、いつ来たの』  
『はい、つい今参つたばかりでございませう、これでも大急ぎでやつて来たんですけれども……實は奥様橋の際から伴で駆けつけて、別荘に伺ひましたら、こちらにゐらつしやるつて爺さんがさう言ふもんですから、直と飛び出して参

つたのでございませう』  
『然う、お前一人かい』  
『はい、私だけでございませう、少しお話ししたいことがございましてね、實はどなたにも秘密でこつそり抜け出して参りましたんですが……』

郁子は黙つて頷いてさうしてばあさんに、  
『ばあや、お前一足先に歸つてね、御飯の仕度をして置いておくれ竹の分もね』  
『畏りました、じやお先へ御免こうむります』  
ばあさんは蛤利の入つて籠を持つて借樂園の裏手に影を消した。郁子は砂地に引揚げられた小舟の舷に腰をかけながら、  
『何か變つたことでも出来て、ちよいと』  
『い、出来ましたとも、大變りです』  
お竹は鹽瀬の手提バックを膝にその前に降んで、  
『奥さま、お留守中に、大變な騒ぎがございましたのよ、昨日執達吏とか何んとか云ふ怖い人たちがばら／＼やつて来て……』

美味！ 芳醇！ 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

**梅毒** **淋病**  
淋病 皮膚病 婦人病 胃性腸病  
門專 腸病科  
院醫科  
七〇一話電  
村松 町南平

各種 体温計 寒暖計 電内藥局  
電話四〇番

風味獨得な……  
**魚清のなべ類**  
例年の通り始めました  
鳥なべ 御一人前 三十五錢  
ちりなべ 三十五錢  
よせなべ 三十五錢  
ねぎまなべ 三十五錢  
かきなべ 三十五錢  
はもなべ 三十五錢  
あんこなべ 三十五錢  
出前も迅速にいたします  
**魚清食堂**  
平町三丁目電話六三三番

**福 徳 生 命**  
外務社員招聘  
經驗の有無に不拘ず  
奮闘家を望む  
希望者は履歴書持参御來談を乞ふ  
◎内職にても差支へなし  
平町一丁目  
代理店主幹 **比佐信太郎**

**大ウリダシ**  
十二月末日まで  
スベテ赤字時代ノ新安値デス  
中ニモノノ際デナクテハオ分カチ出来  
チイ様ナ超物値品ガ十數点ゴザイマス  
たび、メリヤス、みやこ等々ノ御買上  
ハセヒ只今  
セリタヤ洋品店  
5丁目 電353

大塚の **學生靴!!!**  
耐久新製品  
編上靴 六〇〇  
半靴 五〇〇  
不安心なるキカイ靴より、安心得る弊店の靴を……  
大塚支製靴部  
電話七七番

産科 婦人科  
**井坂醫院**  
平町 電話五五九番  
田町 電話五五九番